



MONTHLY

かわせみ通信

2月号

2024年2月

Vol.174

発行所  株式会社 東海テクノ 本社 / 三重県四日市市午起2丁目4番18号 (〒510-0023)
TEL.059-332-5122 (代) <https://www.tokai-techno.co.jp>

甦れ！日本の品質力！

能登半島地震の被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。また現地で献身的な支援をしている方々に崇敬の念を捧げます。

広義の品質について考えてみたいと思います。年初に羽田空港で飛行機の衝突事故が起き、海上保安官が5名亡くなりました(真因未判明)。片やJAL側は全員が無事に避難出来、海外では「奇跡だ」と賞賛されていますが、こちらは日頃の訓練を含めたJAL機長と客室乗務員の業務品質が極めて高い結果だと言えるでしょう。

一方昨年は、軽自動車トップのD社の認証不正問題が勃発し、今もなお量産打ち切りなど重大な影響を幅広く及ぼしています。これはトップマネジメント&製造現場の人の品質の問題です。

今年も、英国の郵便局の“英史上最大の冤罪事件”が報じられ、その中心にシステム開発を担ったF社がいました。本事件は、売側側のシステム開発品質と買う側の検修品質に大きな問題があります。因みに、F社はマイナカードのシステム開発も請け負っています。

加えて先日は新幹線で架線事故が起きました。真因説明はこれからですが、保守能力の著しい劣化を感じます。

羽田の事故(未決着)以外は、すべからく管理や事務や作業の“広義の品質レベル”が低くて、本来防げたはずが防げずに、流出したもばかりです。昨今は日本の品質力劣化が際立ちます。

話は変わって、我が国は戦後、奇跡的な経済成長を遂げました。特需もありましたが、第一義には当代の人たちが誇りを持って猛烈に頑張った結果です。“猛烈”の是非は別にして、少なくとも日本人が元来持つ長所の発露だとは言って良いと思います。その“日本人の良さ”に「周囲に心を配る力」があると思います。

古代の日本人は、“八百万(やおよろず)の



神々”(あらゆる物や場所に神が宿る)に畏怖と崇敬の念を抱いていました。欲得とは離れ(←ここが大事)、身の回り全てに心を配って感謝しながら何十世代にも亘って生きて来たと言えます。長年培った特性が、復興と言う目的を得て良い方向へ開花したのが戦後(前半)の飛躍なのでしょう。

戦略眼ではなかなか勝てない欧米狩猟民族的企業(経済)に伍していく武器が、実はここにあります。

テーマに掲げた『品質力』です。

品質を維持・向上させる鍵は、個々の目配り力と持続力です。極めて日本人に向けた“武器”だと思います。

これは端的に言えば、糊代(のりしろ)を持つ事です。前後左右上下に少しずつ目配りをして、相互に少しずつ手を差し伸べ合うだけで、我々は世界一の武器を手に出れると思います。

ある品質問題が起きてそれを客先の信頼を損なう事無く無事乗り切った人と、日常的に問題を発生させずに平穩に過ごしている人と、どちらが偉大だと思いますか？

筆者は後者だと思いますが、往々にして世間の評価は逆なのを少々残念に思います。

本来の品質力を磨き直して再び JAPAN as number 1 と言われたいものですね。



改正される計量制度、その範囲は？

「計量の基準を定め、適正な計量の実施を確保し、もって経済の発展及び文化の向上に寄与すること」を目的としている計量法。耳慣れない法律だけど、当社が扱う環境計量はその中のほんの一部であって、実は一般社会での取引や証明に幅広く利用されているものなんだ。例えば市販の500gの食料品。商品の種類によって誤差範囲が計量法で決められているので、実際には500gぴったりというわけではない。でも計量器の技術的進歩もあり、加工食品、飲料、薬品等などの計量に用いられる「自動捕捉式はかり」が特定計量器に追加され、R6/4/1～は検定が義務化されるんだ。検定には有効期限もあってメーカーには負担が増えるけれど、より正確な量の表示を確認できるのは消費者としては有り難いね。今後はホッパースケールや充填用自動はかり、コンベヤスケールなどの自動はかりも検定対象となるから、製造業の方はスケジュールの確認が必要だね。

名称	自動捕捉式はかり
主な計量対象	加工食品、飲料、薬品等
特徴	箱、袋、籠などの形態で計量を行う。欠品等の判別や異物混入を選別する機能も備えている
イメージ	

詳細は経済産業省HPへ https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun/techno_infra/000_keiryuu_minaoshi.html

ココに技あり!

『拡がってほしい支援の輪 必要とされるものを必要とされるところへ』

当社は2022年から緊急災害対応アライアンスSEMA(シーマ)へ加盟しており、令和6年能登半島地震で初めて支援物資の要請を受け、七尾市の受け入れ所へ「ニトリル手袋」の送付を行いました。東日本大震災や熊本地震の被災地の状況から立ち上げられたこの組織は、被災地でのヒアリング→現地ニーズの把握→SEMA事務局による加盟企業への物資提供要請→加盟企業が事務局に手をあげるといった流れで、必要とされる物資を必要とされるところへ提供しています。2024年2月現在、企業89社、市民団体6団体が加盟していますが、個人の支援に制限がかかった今回の震災を顧みると、一日も早い復興のためにも、より多くの企業の加盟が望まれます。



●写真提供: ピース・ウィンズ・ジャパン / CIVIC FORCE

社員プチコラム

伊藤みち(企画開発事業部 企画開発室)

2024年が始まり、初詣や厄除け祈願に神社へお参りにいかれた方も多いと思います。私はコロナ禍がきっかけで、よく神社へ行くようになった。私にとって神社は、日々の忙しさから離れ、心が落ち着く空間となっています。神社はコンビニの3倍近くあるので、その多さに信仰の歴史と、奥深さを感じます。最近、御朱印や花手水でインスタ映えを意識されていたりするとところもあるので、ドライブやグルメも含め、初めてのところへ行く楽しみが増えています。

#静岡 #秋葉山本宮秋葉神社 上社 #幸福の鳥居



編集後記

私事ですが、先月インフルエンザにかかってしまいました。TVから流れてくるのは震災や事故のニュースが多く、平穩な毎日や健康ありがたいことだと改めて実感しました。神頼みして救われるものではないかもしれませんが、どこかに頼りたくなるのは今も昔も変わらないのかもしれない。(みっちー)

